

周産期におけるメンタルヘルスケアの取り組み ～安心母と子の委員会活動を通して～第2報

真田産婦人科麻酔科クリニック

○松岡 ちずよ 徳永 和美 島ノ江 栄子 平川 万紀子 平川 俊夫

【目的】

Aクリニックでは2002年から子育て支援の重要性を認識し、産褥期のメンタルケアに力を入れてきた。2014年からは、B市の子育て支援アンケート票(以下 アンケート)導入を機に、多職種で構成する「安心母と子の委員会」(以下 委員会)を立ち上げ妊産婦のメンタルヘルスケアに取り組んでいる。今回、委員会活動を通して、精神的リスクを有する妊産婦を対象に行政、精神科との連携について検討したので報告する。

【方法】

委員会は医師・助産師・公認心理師を含む多職種15名で構成、月1回の定期開催

妊娠初期から精神的リスクを有する妊産婦のリストアップ、面接等を通してサポート体制の検討

抽出方法 : 1.アンケートを基に母子保健支援連絡票の要件に沿ってハイリスク妊産婦をリストアップ
2.診療録、アンケート・エジンバラ産後うつ病質問票・赤ちゃんへの気持ち質問票・育児支援チェックリスト・母子保健支援連絡票より情報を収集

調査期間 : 2017年8月～2018年8月

倫理的配慮 : 個人が特定されないよう配慮し施設長の承認を得た

【結果】

アンケート総数1,297名のうちリストアップ妊産婦は、265名20.4%(妊婦198名 産婦67名)

リストアップのうち精神疾患を有する妊産婦は、119名9.2%(妊婦111名 産婦8名)。うち精神疾患治療中の妊婦は18名1.4%、精神科への連携は4名0.3%(症状悪化1名・症状再燃2名・児の性別受入れ困難1名)。精神疾患を有しないハイリスク妊産婦に対しては、面談・面接後の見守りや電話訪問による支援を行った。リストアップ妊産婦で行政への連携は、208名16%(妊婦149名 産婦59名)。行政へ繋いだ理由(重複あり)は、妊婦では母親の精神疾患が最も多く84名6.5%、産婦では育児への不安が最も多く56名4.3%であった。

【考察】

ハイリスク妊産婦の多くは妊娠初期からリスクが明らかであることから、早期介入と切れ目のない支援が重要である。今回、約2割の妊産婦が助産師妊婦健診や公認心理師らによる面接を複数回行うなど積極的な介入を必要とした。このことからメンタルサポーターでもある助産師は、ポピュレーションアプローチからハイリスクアプローチへと繋ぐ重要な役割があると再認識した。また、妊産婦のメンタルヘルスサポートにおいては一施設だけの活動では不十分であることもわかった。中核となる産科、精神科、小児科および行政が有機的に連携する取り組みが今後の課題といえる。

※本研究は2019年3月第33回日本助産学会学術集会において発表したものに一部加筆・修正したものである。